




2016年2月5日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 中山 英二 
副査 越野 寿 
副査 永畠 裕樹 

今般 笹本 さえら にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 顔面非対称と下顎頭形態の左右差との関連性—三次元分析による形態評価—
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添 (様式第12号)
- 4 最終試験の要旨 別添 (様式第13号)

以上の結果 笹本 さえら は博士 (歯学) の学位を授与する資格のあるものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査

中山 英 =

副査

越野 寿

副査

永島 裕樹



氏 名 笹本 さえら

学位論文題目 顔面非対称と下顎頭形態の左右差との関連性
—三次元分析による形態評価—

本研究の目的は、顔面非対称を伴う不正咬合患者の偏位側と非偏位側における下顎頭形態の差異と下顎骨の位置・姿勢との関連性について、三次元で明らかにすることである。本研究には、30名（男性10名、女性20名、平均年齢21歳7か月）の顔面非対称症例の仮想化したモデルを用いた。まず、仮想患者モデルを作成後、脳頭蓋上顎複合体、下顎骨の2つの要素に細分化し、各々に基準座標系を設定した。次に、骨格性非対称の程度を表す脳頭蓋上顎複合体に対する下顎骨の3つの相対的位置・姿勢に関する情報からVRモデルがもつ幾何学的特徴を抽出した。次に、下顎頭形態の定量（下顎頭長軸長、下顎頭の位置、下顎頭長軸角）を行った。最後に、偏位側と非偏位側における下顎頭形態を比較して検討した。さらに、偏位側と非偏位側における下顎頭形態の差異と脳頭蓋上顎複合体に対する下顎骨の位置・姿勢の相関を検討した。結果より、次のことが示された。

1. 下顎頭長軸長は偏位側が非偏位側に比べ有意に小さく、下顎骨の水平方向への偏位量が大きくなるほど、その差は大きくなった。
2. 体軸面における下顎頭長軸角は偏位側が非偏位側に比べ有意に大きく、下顎骨の体軸面での傾斜度が大きくなるほど、その差は大きくなった。
3. 下顎頭の位置は偏位側が非偏位側に比べ前方および下方に位置しており、下顎頭の前後的距离は下顎骨の水平方向への偏位量と体軸面での傾斜度が大きくなるほど、その差は大きくなった。
4. 偏位側と非偏位側における下顎頭の水平的距離は下顎骨の前頭面での傾斜度が大きくなるほど差が大きくなった。
5. 偏位側と非偏位側における下顎頭の垂直的距離は下顎骨の前頭面と体軸面での傾斜度が大きくなるほど差が大きくなった。

以上より、従来では解明することが困難とされていた顔面非対称と下顎頭形態の左右差との関連性について、三次元で下顎骨に基準座標系を設定することにより、偏位側と非偏位側における下顎頭の三次元形態に差異が存在すること、およびその差異は下顎骨の位置・姿勢と関連性を有することが、明らかとなった。

審査の結果、本論文は博士（歯学）の学位を請求するのに十分値するものと判断した。

様式第13号

最終試験（学力の確認）の要旨

主査

中山 英二

副査

越野 寿

副査

永島 裕樹



氏 名 笹本 さえら

審査委員会において、最終試験を行い申請者の学力の確認を行ったところ、学位論文に関する十分な知識と研究遂行能力を有するとみとめた。以上の結果、博士（歯学）の学位を授与するに値するものと判定した。